

令和2年度 第3回 政策調整会議 会議録①

-
- ◆開催日時:令和2年5月26日(火) 9:30~10:15
 - ◆開催場所:第1委員会室
 - ◆出席委員:堤副市長、大下教育長、残総合政策部長、寒川総務部長、坂井財務部長、前田魅力創造部長
-

◆審議事項

- ・岸和田市新庁舎整備事業設計施工業務公募型プロポーザルの実施について

……………庁舎建設準備課⇒承認

◆審議概要

『岸和田市新庁舎整備事業設計施工業務公募型プロポーザルの実施について』

〈説明者〉花田庁舎建設準備課長、岸本参事

◎付議依頼書に基づき説明

◎説明後、質疑応答

〈堤副市長〉新型コロナウイルスの影響で、総理大臣が新たな日常を創り上げることをめざすと発表している。新庁舎についても、これまでの在り方を検討する必要がある。今後70年ほど使っていく庁舎であるので、組織や人を柔軟に改変できるよう、柔軟性を持ったオフィスを考えなければならない。市民や職員の利用の仕方、今後の高齢化も見据え、ハード面ばかりではなく、ソフト面の対策をされたい。

〈岸本参事〉審査委員長である仲隆介先生は、働き方改革や執務環境を専門に研究されており、委員会においてもハード面に偏らないよう執務空間の考え方について資料を示していただいている。また、要求水準書中にも、働き方やユニバーサルデザインの考え方を盛り込んでいるため、一定の配慮はできていると考えている。また、IT推進の面では、IT推進課と今後の方向性等について協議を進めており、システム構築を妨げないために要求水準書にも記載している。基本設計を進めていく中でも、それらを考慮するよう事業者に求めていきたい。

〈教育長〉今後、防災拠点としての庁舎の役割が高まってくると考える。ハザードマップを見ると、津波の時には南海線よりも山側へ逃げるように周知されているようで、この場所も津波被害が一定想定される地域に入っているのではないかと推察されるが、要求水準書等にはそういった防災の観点も盛り込まれているのか。

〈岸本参事〉浸水範囲としては現庁舎も含まれていないが、想定外をなくすこと、市民へのわかりやすい指標を示す必要があるということで、南海線よりも海側を避難地域としているところである。また、想定外の規模の自然災害に備え、津波避難ビルとして活用できるようにすること、地下レベルには、執務空間や電源設備等重要機器を置かず、駐車スペースのみにするということとしている。

〈教 育 長〉評価の基準について、外部空間の構成への配点が、一次審査で 30 点、二次審査で 40 点の計 70 点あるのに対し、コスト管理は 20 点で3倍以上の開きがある。新庁舎では、岸和田城の近くにあり、市のシンボルとなる建物であるため、デザイン面を重視した配点をしているという理解でよいか。

〈庁舎建設準備課長〉そのとおり。

〈岸 本 参 事〉デザイン面だけでなく、技術面も重視している。

〈教 育 長〉若手の登用を促すようなプロポーザルにしたいということだが、一次審査で設計者の受賞実績等に 10 点配点されているのはどのような考えからか。

〈岸 本 参 事〉受賞実績については、どのような賞をとっていることがよいのか選定委員会内でも議論になったところ。有名な賞、若手の登竜門的な賞、その他審査員が認めるものといった項目を作り、単に受賞歴があるかどうかではなく、その賞がどのような趣旨のものなのか等を踏まえていきたい。

〈教 育 長〉賞を受賞した建物が必ずしも利用者にとって利便性が高いとは言えないので、注意して選考する必要がある。追加の工事が必要になることがないように。また、文化財の保護には万全を期されたい。

〈岸 本 参 事〉デザインのみの特化することのないよう、アドバイザーからの助言を踏まえ事務局としても意見を出していきたい。

〈総 務 部 長〉一次審査と二次審査の間に、審査員ではなく、アドバイザーが同席する応募者と事務局との個別対話があるため、市民や職員の利便性についての市の思いはそこで伝えていきたい。ソフトの面での今後の課題として、市役所に来ずとも手続きが進められるよう ICT・情報政策の拡大、在宅勤務可能な業務の選定や情報の持出し、人口減少による職員数の減少がある。そういった点も考えつつ、約 70 年利用する庁舎ということで、部署の垣根をあまり明確にせず柔軟に対応できるような形をめざし、事業者を選ぶにあたって、慎重に検討していきたいと考えている。

〈財 務 部 長〉窓口のワンストップ化の検討なども含め、実施設計までに窓口対応をしている職員の意見を聞く場を設けられたい。実施要領や審査員の名前はオープンにしてよいか。

〈岸 本 参 事〉問題ない。

〈財 務 部 長〉コシノ三姉妹はどういった位置付けになるのか。

〈岸 本 参 事〉審査には全く関わらない。無報酬のアドバイザーという位置付けである。

〈財 務 部 長〉付議依頼書別紙に積立金として、令和2年度予算に1億7千万円とあるが、これは令和2年度に補正予算計上をするということか。

〈庁舎建設準備課長〉現在不足がそれだけあるということだが、令和2年度に必ず積立を要するものではなく、工事の着手までに必要であるということ。

〈財 務 部 長〉再建プランを作ったときに令和元年度で 10 億、令和3年度で4億円という数字が出ていたが、それは関係ないか。

〈庁舎建設準備課長〉できる限り事業費を絞ってきており、現在の事業費からすると不足分が記載のとおりという認識である。

〈総合政策部長〉埋蔵文化財の試掘調査については起債の対象になるのか。

〈庁舎建設準備課長〉ならない。ただし、大規模なものは出てこないだろうという郷土文化課の見込みがあるので、大規模な発掘にはならないと予想している。

〈総合政策部長〉液状化対策に係る造成工事費や地盤改良費、止水対策工事費は、建設に係る一連の部分

なので、起債の対象になると考えてよいのか。

〈岸 本 参 事〉必要となった場合は、起債の対象範囲となる。

〈総合政策部長〉本案件について、原案のとおり承認し、政策決定会議に諮ることとしてよいか。

【異議なし】

⇒本件、原案のとおり承認し、政策決定会議に付議する。

付議会議	令和2年度 第3回会議
付議事項	岸和田市新庁舎整備事業設計施工業務公募型プロポーザルの実施について

★取組の目的

対象	岸和田市新庁舎整備事業設計施工業務公募型プロポーザルの実施
どのような状態を目指す	新庁舎の整備をデザインビルド(基本・実施設計施工一括発注)方式により行うための事業者選定を公募型プロポーザルで実施する。

★総合計画上の位置付け

202030201	基本目標	II-2 適正で、分かりやすい行財政運営をする
↑ここにコードを入力 (コードは「総計体系」を参照)	達成された姿	(3)事務を効果的・効率的に行うための体制が整っている
	目指す成果	②資産が適正に管理・運用され、有効に活用されている
	行政の役割	ア 市の財産を適正に管理する

★現状と課題

平成30年度に新庁舎の建設地(所在地)を決定し、令和元年度に新庁舎整備基本計画を策定。
市町村役場機能緊急保全事業による起債活用の条件である令和2年度末までの実施設計着手を目指すため、新庁舎の整備をデザインビルド(基本・実施設計施工一括発注)方式により行うための事業者選定を公募型プロポーザルで実施する。
令和2年6月8日から公募開始し、令和2年12月に受注候補者を選定、令和3年3月(3月議会承認後)に本契約を締結する。

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額					
	H30年度	H31(R1)年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
委託料	13,884	32,589		239,278	450,888	43,441	26,941	26,941	
工事請負費				2,200	469,585	3,241,497	2,268,509	2,527,690	
積立金(庁舎建設基金)	11	1,000,011	170,021						
備品購入費							111,760		
その他	253	1,002	2,197	1,000	1,000	1,000	1,000	39,940	
財源内訳	国費								
	府費								
	起債					820,803	2,941,594	2,065,905	2,298,673
	一般財源	14,148	1,033,602	172,218	242,478	100,670	344,344	342,305	295,898
	その他								
事業費			計	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
			9,452,670	242,478	921,473	3,285,938	2,408,210	2,594,571	

★当該事項に関連する人員増の必要性*

人員増の必要性	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
有	1				
無					

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	目標値								
		H30年度	H31(R1)年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
①										
②										

※事業費及び人員を確約するものではない。